

株主の皆様へ

第79期 中間報告書

〈2026年1月1日～2026年6月30日〉



山崎製パン株式会社

証券コード 2212

株主の皆様へ



目次

株主の皆様へ	1
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
製品情報	9
社会貢献活動	11
財務諸表（連結）	13
財務諸表（単体）	15
YAMAZAKIインフォメーション	16
株式の状況、役員・従業員	17
グループ概要	18
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。
当社グループ第79期事業年度の中間報告書（2026年1月1日から2026年6月30日まで）をお届けするにあたり、ご挨拶申しあげます。

はじめに、7月28日に発生しました「令和8年熊本地震」に関しまして、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈り申しあげます。

当社におきましては、震源地の宇城市にあります熊本工場が被災し、稼働停止を余儀なくされましたが、ヤマザキの精神に従い、地震発生直後から本社および熊本工場に対策本部を設置し、毎日、本社において熊本工場と連携した対策会議を開催し、一日も早い復旧に向け全社を挙げて取り組みました。出荷・配送につきましては、近隣の福岡工場から熊本工場にパン、和洋菓子製品を供給し、また福岡工場へは広島、岡山および関西諸工場から製品を供給するなど対応をはかり、8月1日から熊本工場エリアの販売店様への納品を再開いたしました。生産につきましては、8月2日に一部のラインで生産を再開し、8月10日には全ての生産ラインで稼働を再開いたしました。また、緊急食糧につきましては、農林水産省や各自治体、流通チェーンの依頼を受けパン類やおにぎりを供給いたしました。

さて、当中間期におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い中で、中東情勢の影響による包材等の高騰に加え、人件費や物流費の上昇もあり、厳しい経営環境となりましたが、当社は引き続き、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、業績向上をはかりました。

一昨年に「ダブルソフト」の大幅な品質改善を実現した技術を更に前進させた品質改善技術を見だし、昨年11月に「ダブルソフト」に導入し、本年1月には主力の「ロイヤルブレッド」に導入し、他の食パン、菓子パンおよび和洋菓子製品等にも積極的に活用し、品質向上をはかるとともに、2極化・3極化戦略によって、低価格製品の充実強化や女性製品開発担当者による付加価値を付けた製品開発に取り組むなど、変化するお客様の求めに対応してまいりました。

また引き続き、労働安全衛生推進基本会議を開催し、経営陣、本社各部・各工場が一体となって労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組むとともに、従業員と管理・監督職による2本立ての労働安全衛生管理体制の充実強化をはかり、働く職場の安全安心にも取り組みました。

以上により、当中間期の業績につきましては、山崎製パン(株)単体の業績が順調に推移したことに加え、(株)YKベーキングカンパニーやヤマザキビスケット(株)など連結子会社の業績が好調に推移したこともあり、お陰様をもちまして、増収増益を達成することができました。

本年7月1日の出荷分から実施した一部の食パン、菓子パンおよび和洋菓子製品の価格改定につきましては、各部門におけるヤマザキの技術を活用した品質向上や、各部門毎の施策・戦略に加え、各工場で推進している管理職の5S活動が奏功したこともあり、販売数量を確保し、業績は順調に推移しております。

下半期は、引き続き「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新しい価値の創造に取り組んでまいります。

デイリーヤマザキ事業につきましては、本年7月に体制整備を行い、新しい価値の創造を担う商品本部の充実強化をはかりました。新体制のもと、商品本部と営業本部が一体となって、「いのちの道」の教えに従い、新しい価値の創造を種蒔きの仕事から開始する部門別商品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」によって取り組み、山崎製パン(株)各部門や(株)サンデリカと一体となって、変化するお客様の求めに対応したデイリーヤマザキのオリジナル商品の開発に当たり、デイリーヤマザキのヤマザキパンの手としてのあるべき姿を追求し、業績改善をはかってまいります。

さて、当社は、2027年3月から開催される「2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）」にヤマザキパングループとして出店し、パビリオン「ヤマザキ『明日の明るい食卓』館」を設営し展示を行います。「日本の食と食卓の明日と未来」（和の精神といのちの道）をテーマとして、日本社会における米食文化の中に花を咲かせたパン食文化を紹介するとともに、新しい価値の創造や技術の前進への挑戦が、明日の明るい食卓を守り、更に創造していくことを、ご来場の皆様にお伝えしたいと考えております。さらに、その翌年の2028年に、当社は創業80周年を迎えます。これらを大きな節目ととらえ、21世紀のヤマザキの前進に向け、グループ一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2026年9月

代表取締役社長 飯島 延浩

GREEN×EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN



提供：2027年国際園芸博覧会協会



ヤマザキ「明日の明るい食卓」館 完成予想図



事業の概要

当中間期における連結業績の概況

売上高	6,766億 36百万円 (対前年同期比 104.0%)
営業利益	358億 50百万円 (対前年同期比 103.3%)
経常利益	378億 75百万円 (対前年同期比 106.8%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	241億 97百万円 (対前年同期比 105.3%)

当中間期の事業の概況

当中間期におけるわが国経済は、企業業績を下押しする中東情勢の影響はありましたものの、賃上げによる所得環境の改善や政府の経済対策を背景に個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、油脂や包材等の原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費等の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストア業界におきましては、ドラッグストアや小型スーパー等の他業態との競争激化や人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にありまして、当社グループは、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施

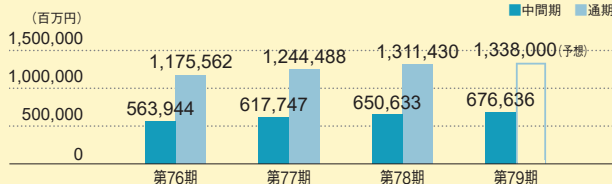
策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主力製品の品質向上をはかるとともに、2極化・3極化戦略によって低価格製品を充実する一方で、女性製品開発担当者を中心に付加価値を付けた製品開発に取り組むなど、変化するお客様の求めに応じた隙のない製品開発を推進しました。また、一昨年、新規技術を活用して品質改善を実現した「ダブルソフト」の技術を更に前進させた品質改善技術を、本年1月に主力の「ロイヤルブレッド」に導入し、さらに他の食パン、菓子パン、和洋菓子製品等にも活用し、業績向上をはかりました。

また、当社は労働安全衛生管理体制の充実強化を推進し、労働安全衛生推進基本会議を毎月開催して、経営陣、本社各部・各工場が一体となって、労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組むとともに、従業員と管理・監督職による2本立ての労働安全衛生管理体制の充実強化をはかり、業績向上対策とともに働く職場の安全安心の実現をめざしました。

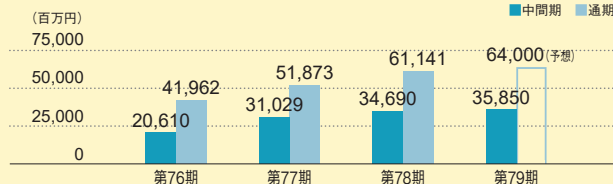
デイリーヤマザキやフレッシュベーカリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにおいて日次管理・週次管理・時間管理の経営手法により問題課題を正確に把握して原因を追究し対応策を推進するなど、日々の仕事の精度向上をはかりました。また、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、新規技術により品質向上をはかった冷凍生地を活用するとともに、女性製品開発担当者の感性を活かした競争力のある商品開発を推進するなど、業績向上をはかりました。

当中間期の業績につきましては、ヤマザキの技術を活

売上高



営業利益



用して品質向上を推進したこともあって山崎製パン(株)単体の業績が順調に推移するとともに、連結子会社の業績が好調に推移し、増収増益となりました。

【セグメント別の状況は5頁から8頁のとおりです。】

通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、所得環境の改善が進み、政府の経済対策の効果もあって、個人消費は持ち直しに向かうことが期待されますが、中東情勢の影響が懸念され、景気の先行きは予断を許しません。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、主原料である小麦粉や油脂、包材等原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費、光熱水費の上昇が予測され、厳しい経営環境になるものと思われます。

このような状況下にあります、当社は、2026年7月1日出荷分から一部の食パン、菓子パンおよび和洋菓子製品の価格改定を実施しましたが、各部門毎に施策・戦略を推進し、各部門においてヤマザキの技術を活用した品質向上をはかるなど準備を丁寧に進めたことや、各工場で推進している管理職の5S活動が奏功したこともあり、販売数量確保を実現し、業績は順調に推移しております。

当社グループは引き続き、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会によ

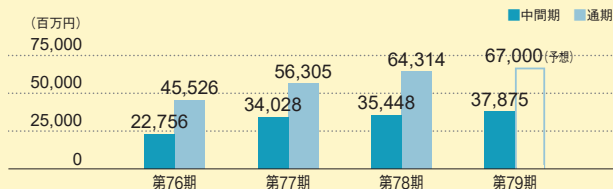
る「なぜなぜ改善」を推進し、ヤマザキの技術を活用した品質向上に取り組むとともに、チルドパンや惣菜パンの充実強化に取り組むなど、2極化・3極化戦略によって変化するお客様の求めに応じた隙のない製品開発を推進し、業績向上をはかってまいります。また、2本立ての労働安全衛生管理体制を充実強化して、熱中症対策を含め働く職場の安全安心の実現にも取り組んでまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始するとともに、新しい価値の創造を行う商品本部の充実強化をはかり、商品本部が営業本部と一体となって変化するお客様の求めに対応したデイリーヤマザキのオリジナル商品の開発に取り組むなど、デイリーヤマザキのあるべき姿を追求し、業績改善をはかってまいります。

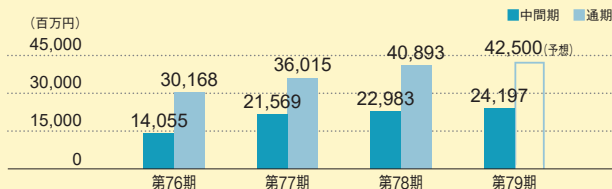
通期の連結業績見通し

売上高	1兆3,380億円 (対前期比 102.0%)
営業利益	640億円 (対前期比 104.7%)
経常利益	670億円 (対前期比 104.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	425億円 (対前期比 103.9%)

経常利益



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益





セグメント別の状況

食品事業

売上高 **6,292億11百万円** (対前年同期比 104.1%)

93.0%
売上高構成比

食パン部門

売上高 **639億42百万円** (対前年同期比 102.6%)

9.5%

食パンは、1月に品質向上をはかった主力の「ロイヤルブレッド」が伸長するとともに、チェーンオリジナル対応を含む低価格食パンが大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。



ロイヤルブレッド



ダブルソフト



超芳醇



ふんわり食パン



モーニングスター



スイートブレッド

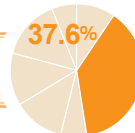


ダブルソフト
全粒粉入り



レーズンゴールド

菓子パン部門 売上高2,546億40百万円 (対前年同期比 104.5%)



菓子パンは、主力の「まるごとソーセージ」が大きく伸長するとともに、品質向上をはかった「コッペパン」などの主力菓子パンや「アップルパイ」、「ずっしりデニッシュ」シリーズなどのペストリーが伸長しました。さらに、(株)YKベーキングカンパニーをはじめヤマザキの技術を積極的に活用した製品が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。



ロイヤルバターロール



まるごとソーセージ



ずっしりデニッシュ



カレーパン



コッペパン

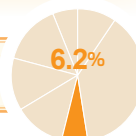


アップルパイ



ハムマヨ
(株)YKベーキングカンパニー

和菓子部門 売上高417億35百万円 (対前年同期比 106.4%)



和菓子は、主力の串団子や大福が好調に推移するとともに、品質向上をはかった主力の「北海道チーズ蒸しケーキ」や低価格製品の「やまざき蒸しパン」が大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。



串団子



豆大福



黒糖まん



北海道チーズ蒸しケーキ



熟成マラーカオ
(やまざき蒸しパン)



セグメント別の状況

洋菓子部門 売上高**841億58百万円**（対前年同期比 103.1%）

12.4%

洋菓子は、品質向上をはかった2個入り生ケーキや「イチゴスペシャル」などのスペシャルシリーズが伸長するとともに、新規技術を活用してクリーム風味向上をはかった「大きなツインシュー」などのシュークリームが大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。



莓のショートケーキ



イチゴスペシャル



大きなツインシュー



ダブルロール

調理パン・米飯類部門 売上高**854億55百万円**（対前年同期比 101.2%）

12.6%

調理パン・米飯類は、(株)サンデリカにおいて、サンドイッチを中心に主要取引先であるコンビニエンスストアチェーンや量販店との取引が増加し、前年同期の売上を上回りました。



手巻おにぎり
シーチキンマヨネーズ



大きなサンド
野菜サンド

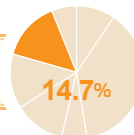


ひとくちサンド



肉たっぷりつゆだく牛丼

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高 992億78百万円 (対前年同期比 106.5%)



製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ホームパイ」が好調に推移するとともに、ヤマザキビスケット(株)の「エアリアル」や(株)東ハトの「ポテコ」等のスナック製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。



ホームパイ



エアリアル



チップスター



ポテコ

流通事業

売上高 392億4百万円 (対前年同期比 100.7%)

5.8%
売上高構成比

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、運営・商品が一体となってオリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携して新規技術を活用したデイリーホットベーカリーの商品開発を推進し、お客様に喜ばれるヤマザキ独自のコンビニエンスストアチェーンをめざしました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトの取組みを大阪ドミナントに拡大し、大阪エリアの工場と連携してデイリーホットを中心に収益の改善をはかるとともに、売り場づくりや店舗改装によりヤマザキらしい店づくりに取り組むなど、店舗収益の改善をはかったこともあり、前年同期の売上を確保しました。



デイリーヤマザキ川崎マリエン店(神奈川県川崎市)



デイリーヤマザキ 当中間期末の店舗数

1,240店

(前年同期末差 24店減)

●デイリーヤマザキ

994店

(前年同期末差 10店減)

●ニューヤマザキディリーストア

238店

(前年同期末差 13店減)

●ヤマザキディリーストアー

8店

(前年同期末差 1店減)



製品情報

惣菜パンのご紹介

惣菜パンは、調理せずに、手軽に食事として楽しむこともあり、ニーズが高まっております。
さまざまなラインアップの中から、特にお客様にご好評をいただいている製品をご紹介します。

パングルメ

まるごとソーセージ

ソーセージがまるごと1本のった、惣菜パンのベストセラー製品です。

ふんわりソフトな食感に仕上げたパン生地とからし入りドレッシングがさらに味を引き立てます。



カレーパン

スパイスのきいたジューシーな本格カレーパンです。じっくり煮込んで野菜と肉の旨みを引き出した味わいが、長年にわたり幅広いお客様に支持されています。



コッペパングルメ

しっとりソフトな食感に焼きあげたコッペパンに、惣菜フィリングをサンドしました。



薄皮グルメ

しっとりとしたパン生地に、たまごなどの惣菜フィリングをたっぷり包みみました。



ヤマザキの中華まん

9月から、「肉まん」や「ピザまん」などの中華まんの販売を開始しています。

新規技術により、生地がさらにふんわりと口だけのよい食感となるよう品質向上したほか、具材にも改良を加え、より食べごたえのある製品になっております。

おやつとしてだけでなく、手軽な食事としてもお楽しみいただけます。



チルドパン&チルド和菓子のご紹介

お客様のさまざまなニーズにお応えするため、チルド製品の品揃えの充実をはかっております。
洋菓子だけでなく、菓子パンや和菓子にもチルド製品を取り揃えておりますので、その一部
をご紹介します。

フレンチクルーラー

甘さ控えめのホイップクリームを入れたフレンチクルーラーに、チョコをコーティングしたチルドドーナツです。



たっぷり牛乳ホイップパン

しっとりとした生地、北海道産牛乳入りホイップクリームをたっぷり注入したチルドパンです。



北海道チーズ蒸しケーキのミルククリームサンド

北海道産生クリーム入りのミルククリームを「北海道チーズ蒸しケーキ」でサンドしたチルドスイーツです。



ミルクブレッド

牛乳仕込みのふわふわのパンに、口どけのよいホイップクリームをサンドしたチルドパンです。



※デイリーヤマザキ、ヤマザキショップ等の一部店舗で販売しています。

月どら

栗のモンブランあんとなんぽあんホイップ入り大福をサンドしたもちもち食感のチルドどら焼きです。



※秋限定の製品です。



公益財団法人 国際開発救援財団(FIDR)^{ファイダー}

国際協力援助活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献活動の一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団（FIDR）への支援を通じ、国際協力援助活動と緊急援助活動を推進しております。

FIDRへの支援

FIDRは、1990年に当社創業者の故・飯島藤十郎社長が主たる基本財産を出捐し、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）を支援する目的で設立された民間の援助団体です。

子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本人と日本企業による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の生活環境の向上と地域の発展を目的とした国際協力援助活動と、国内外の自然災害に対する緊急援助活動を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、栄養、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っております。また、2026年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」の被災地における緊急・復興支援に、これまでの国内外での緊急援助活動の経験を活かしながら取り組んでまいります。

当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

栄養教育の普及に向けた支援

FIDRはカンボジア教育省とともに、カンボジア全国の学校における「栄養教育」の導入に向け必要な準備を進め、教科書の執筆、栄養の授業の教え方についての教員研修、全国に先駆けて栄養教育や衛生的な学校環境づくりを行う4つのモデル校の整備を支援しました。

5年間の活動を経て、小・中学校、高等学校で、新しい教科書を使って段階的に栄養の授業が始まりました。モデル校ではトイレや水飲み場が整備され、教室にも飲料水タンクが配備されるなど、衛生的な環境が整いました。また、モデル校の教員は、教科書や手づくり教材、視聴覚機器を活用しながら栄養教育に取り組んでいます。学校菜園では多種類の野菜が栽培され、調理実習の食材となっています。子どもたちが学んだ知識を実践できる環境が整ったことに加え、教員の意識が大きく変化し、子どもの健康を支える学校づくりや栄養教育を担っていく自覚とやる気が高まりました。



新しい教科書を手にする子どもたち（カンボジア）

● 地域の衛生状況と農業生産の改善

FIDRは、ネパールのヒマラヤ山脈の裾野にあるソルクンプ郡とオカルドゥンガ郡において地域総合開発事業を実施しております。地域の大きな課題は、衛生的な水の不足です。農業用水も乏しく、農業生産力の低さにつながっていました。

2025年度までに4基の貯水タンクを建設したことで、地域住民は常時衛生的な水を得ることができるようになりました。また、これまでに農業用ため池を312か所に造営し、ハウス栽培の設備を1,640か所に設けました。これにより、水不足により農業生産量が落ちやすい乾季であっても、野菜栽培を行える農家は年々増加し、余剰を販売できる農家も出てきました。

さらに、子どもたちの学習環境を改善するため、対象地域の小・中学校36校では、校舎屋根や学校外周を囲うフェンス設置等の修繕を行うとともに、教材・教具を配備しました。また、生徒を対象とした歯磨き研修、小・中学校36校の教員を対象とした教員研修も開催しました。



農業用ため池と造営した農家の人々(ネパール)

FIDRホームページのご案内

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施しております。FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、下記のホームページで紹介しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.fidr.or.jp/>

● 令和6年能登半島地震緊急援助

2024年元日に発生した石川県の能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震は、広い範囲での建物の倒壊や道路の寸断、大規模火災をもたらし、多数の人命被害や住宅の損壊が発生し、産業基盤が喪失しました。FIDRは震災発生直後から情報収集を開始し、現地への出張調査を行い、行政や民間による支援が届きにくいところへの支援活動を実施しました。

能登半島の突端に位置する珠洲市の小・中学校11校は、いずれも小規模です。子どもたちが、多数で一緒に学び、学習における気づきや励みを得られるよう、オンライン学習環境の整備を支援しました。また、複数の学校から児童・生徒が集まり「地域クラブ」として活動する野球クラブや相撲クラブへ、用具やユニフォーム等を支援し、子どもたちの健やかな成長を支えました。



ICT教材で他校の子どもたちとつないだ授業が実現（石川県珠洲市）

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社は、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協賛し、約3,000の販売店に募金箱を設置しております。これまでの募金はFIDRとWVJを通じて、アフリカやアジアの開発途上国での援助活動などに役立てられております。





財務諸表（連結）

貸借対照表のポイント

流動資産

現金及び預金が増収等により増加しましたが、季節的変動により売掛金が316億19百万円減少したこと等により、流動資産合計で161億37百万円減少し、3,493億33百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、品質向上のための生産設備の更新等を実施しましたが、償却が進んだこともあり2億6百万円減少、また無形固定資産は、のれんの償却等により2億90百万円減少し、有形・無形固定資産合計は3,891億80百万円となりました。当中間期の設備投資額は、219億83百万円、減価償却実施額は220億36百万円であります。

投資その他の資産

所有株式株価の上昇により投資有価証券が増加したこと等により、投資その他の資産合計は12億19百万円増加し、1,779億49百万円となりました。

負債合計

借入金の約定返済や支払債務の減少等により、負債合計は281億27百万円減少し、3,929億23百万円となりました。

純資産合計

自己株式の取得による減少はありましたが、利益剰余金の増加等により、純資産合計は127億12百万円増加し、5,235億40百万円となりました。

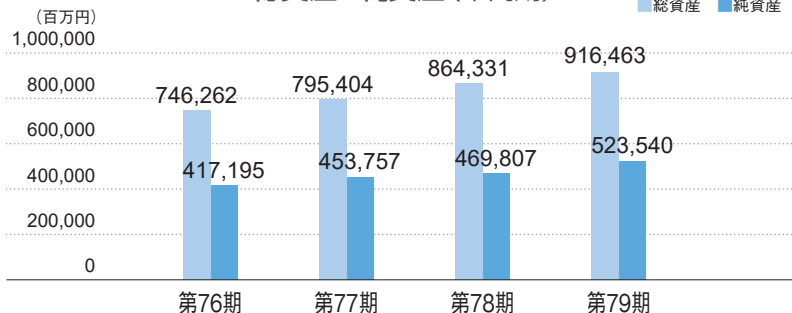
中間連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

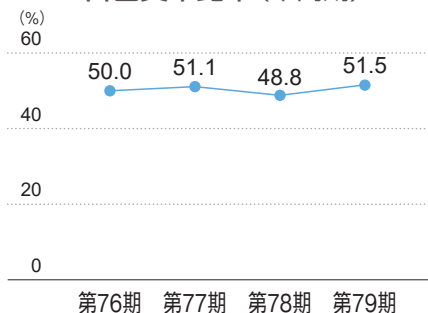
科 目	当中間期末 2026年6月30日現在	前期末 2025年12月31日現在	増 減
資産の部			
流動資産	349,333	365,470	△16,137
固定資産	567,130	566,407	722
有形固定資産	371,357	371,564	△206
無形固定資産	17,822	18,112	△290
投資その他の資産	177,949	176,730	1,219
資産合計	916,463	931,878	△15,415
負債の部			
流動負債	250,321	274,156	△23,835
固定負債	142,601	146,893	△4,292
負債合計	392,923	421,050	△28,127
純資産の部			
株主資本	381,716	371,761	9,954
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,691	9,691	-
利益剰余金	418,752	406,573	12,178
自己株式	△57,741	△55,517	△2,224
その他の包括利益累計額	89,838	88,119	1,718
非支配株主持分	51,986	50,947	1,039
純資産合計	523,540	510,828	12,712
負債純資産合計	916,463	931,878	△15,415

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

総資産・純資産（中間期）



自己資本比率（中間期）



損益計算書のポイント

売上高

ヤマザキの技術を活用して品質向上を推進したこともあり、単体の業績が順調に推移するとともに、連結子会社が海外子会社を含め好調に推移し、前年同期に比べ4.0%の増収となりました。

営業利益

油脂や包材等の原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費等の上昇はありましたが、増収により吸収し、前年同期に比べ3.3%の増益となりました。

経常利益

増収に加え、海外子会社への外貨建貸付金に係る為替差益の計上もあり、前年同期に比べ6.8%の増益で、売上高経常利益率は5.6%となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益

特別利益の減少はありましたが、増収により前年同期に比べ5.3%の増益となりました。

中間連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 2026年1月1日から 2026年6月30日まで	前中間期 2025年1月1日から 2025年6月30日まで	増 減
売上高	676,636	650,633	26,003
売上原価	451,505	434,418	17,086
売上総利益	225,131	216,214	8,917
販売費及び一般管理費	189,281	181,523	7,758
営業利益	35,850	34,690	1,159
営業外収益	3,286	2,929	357
営業外費用	1,261	2,172	△910
経常利益	37,875	35,448	2,427
特別利益	155	533	△377
特別損失	1,307	1,358	△51
税金等調整前中間純利益	36,724	34,623	2,101
法人税等合計	11,570	10,410	1,160
中間純利益	25,154	24,213	941
非支配株主に帰属する中間純利益	957	1,230	△272
親会社株主に帰属する中間純利益	24,197	22,983	1,214

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

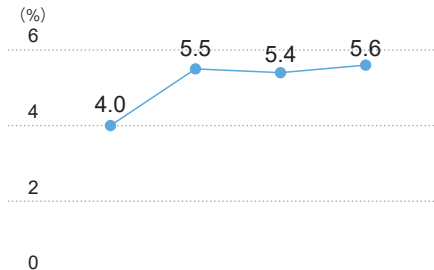
中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 2026年1月1日から 2026年6月30日まで	前中間期 2025年1月1日から 2025年6月30日まで	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,411	62,018	392
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,183	△28,412	△4,771
財務活動によるキャッシュ・フロー	△22,789	△13,578	△9,210
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,366	△69	1,435
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,804	19,958	△12,153
現金及び現金同等物の期首残高	155,423	145,939	9,484
現金及び現金同等物の中間期末残高	163,228	165,897	△2,669

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

売上高経常利益率(中間期)



第76期 第77期 第78期 第79期



財務諸表（単体）

中間貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 2026年6月30日現在	前期末 2025年12月31日現在	増 減
資産の部			
流動資産	170,566	181,851	△11,284
固定資産	414,571	416,155	△1,584
有形固定資産	209,596	212,266	△2,669
無形固定資産	7,785	7,695	90
投資その他の資産	197,189	196,194	994
資産合計	585,137	598,007	△12,869
負債の部			
流動負債	151,214	163,805	△12,590
固定負債	84,123	89,941	△5,818
負債合計	235,337	253,747	△18,409
純資産の部			
株主資本	308,092	304,049	4,042
資本金	11,014	11,014	－
資本剰余金	9,676	9,676	－
利益剰余金	345,143	338,876	6,267
自己株式	△57,741	△55,517	△2,224
評価・換算差額等	41,707	40,210	1,497
純資産合計	349,800	344,259	5,540
負債純資産合計	585,137	598,007	△12,869

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 2026年1月1日から 2026年6月30日まで	前中間期 2025年1月1日から 2025年6月30日まで	増 減
売上高	462,378	448,411	13,967
売上原価	307,178	299,007	8,170
売上総利益	155,200	149,404	5,796
販売費及び一般管理費	131,830	126,626	5,203
営業利益	23,370	22,777	592
営業外収益	4,043	3,438	605
営業外費用	613	1,541	△927
経常利益	26,800	24,674	2,125
特別利益	134	74	59
特別損失	847	619	227
税引前中間純利益	26,087	24,129	1,957
法人税等合計	7,967	6,749	1,217
中間純利益	18,120	17,380	740

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

■ ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」

2026年9月1日（火）から10月31日（土）までの期間、ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」キャンペーンを実施しております。

詳しくは対象商品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

Aコース

東京ディズニーリゾート®パークチケット(ペア) + 東京ディズニーリゾート®ギフトカード5,000円分

Bコース

ヤマザキグループ お菓子のファンタジーボックス

★秋の
わくわく
プレゼント

毎週抽選で総計

ヤマザキ

50,000 名様に
当たる!

キャンペーン期間

9月1日(火)~10月31日(土)
応募期間: 11月15日(日)

A
コース
20
名様に

東京ディズニーリゾート®
パークチケット
+
東京ディズニーリゾート®
ギフトカード5,000円分

5,000 名様に (2,500組)



※山崎製パン株式会社は東京ディズニーランド/東京ディズニーシーのオフィシャルパートナーです。

B
コース
5
名様に

ヤマザキグループ
お菓子の
ファンタジーボックス

45,000 名様に



人気の
お菓子が
17品

※写真はイメージです(カゴはプレゼントに含まれません)。
※お菓子の組合せは抽選、デザインは変更になる場合がございます。
※賞品(お菓子)の入った箱を組み立てるとお菓子のファンタジーボックスになります。

■ 株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様（ご所有株式数1,000株以上）に対し、3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けしたものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象としております。

■ ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、商品情報やおすすめのリシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<https://www.yamazakipan.co.jp/>



株式の状況 (2026年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	19,501名 (前期末比1,355名減)

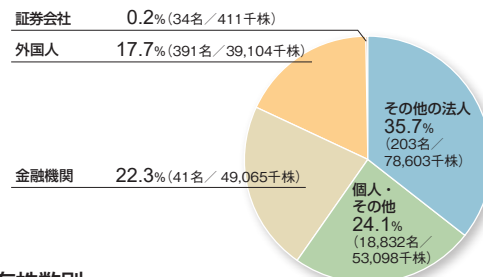
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	19,042,795	9.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,548,700	7.3
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	6.3
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	11,810,275	5.9
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.6
三菱商事株式会社	9,849,655	5.0
丸紅株式会社	8,165,880	4.1
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	3.3
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,495,000	2.2
株式会社三井住友銀行	3,946,419	2.0

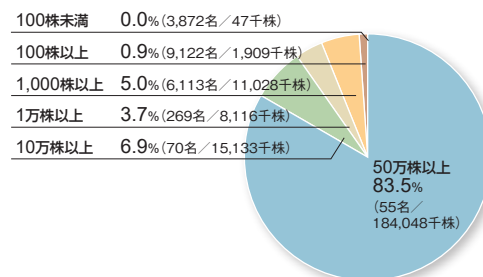
(注) 1. 当社は、自己株式を23,378,061株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



役員・従業員 (2026年6月30日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
代表取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	横濱 通雄	取締役 常勤監査等委員	佐藤 健司
専務取締役	会田 正久	取締役 常勤監査等委員	松田 道弘 (社外取締役)
専務取締役	犬塚 勇	取締役 監査等委員	馬場久萬男 (社外取締役)
専務取締役	関根 治	取締役 監査等委員	藤瀬 裕司 (社外取締役)
専務取締役	吉田谷良一		
常務取締役	酒井 光政		
常務取締役	吉田 修康		

従業員

連結	34,412名 (男性24,451名、女性9,961名)
当社	19,580名 (男性15,229名、女性4,351名)



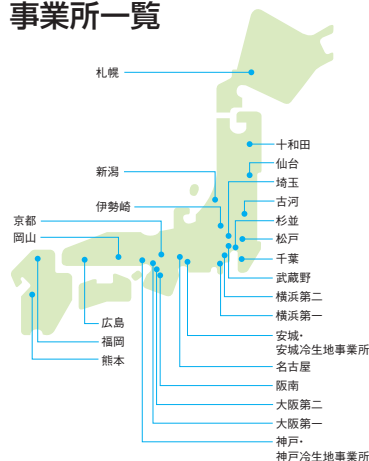
グループ概要 (2026年6月30日現在)

重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	54.4	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造および販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造および販売
株式会社YKベーキングカンパニー	1,110	100.0	パン、洋菓子等の製造および販売
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	100	100.0	ベーカリーカフェの経営
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造および販売
株式会社イケダパン	100	88.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc.(アメリカ)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造および販売ならびにベーカリーカフェの経営
フォーリーブズ PTE.Ltd.(シンガポール)	1,250千\$	60.0	ベーカリーの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造および販売ならびにインスタベーカリーの経営
タイヤマザキCo.,Ltd.(タイ)	64,000千B	85.0	ベーカリーの経営
香港山崎麵飽有限公司(香港)	45,500千HK\$	100.0	ベーカリーの経営
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造および販売
台湾山崎股份有限公司(台湾)	40,000千NT\$	90.0	ベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
PT.ヤマザキインドネシア(インドネシア)	8,830億RP	51.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理および工事の請負

- (注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。
2. タイヤマザキCo.,Ltd.における当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
3. (株)サンロジスティックスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
4. 連結子会社は、上記重要な子会社21社を含む40社であります。

事業所一覧



本社	東京都千代田区岩本町 3-10-1	大阪第一工場	大阪府吹田市幸町29-1
本 松 戸 工 場	千葉県松戸市南花島向町319	神 戸 工 場	兵庫県神戸市西区高塚台 6-19-1
千 葉 工 場	千葉県千葉市美浜区新港22	大阪第二工場	大阪府松原市三宅東 2-1835-5
武蔵野工場	東京都東久留米市柳窪 2-5-14	阪 南 工 場	大阪府羽曳野市広瀬161
埼 玉 工 場	埼玉県所沢市坂之下85	京 都 工 場	京都府宇治市横島目川100
杉 並 工 場	東京都杉並区高井戸西 3-2-30	名古屋工場	愛知県名古屋市中区玉池町36
横浜第一工場	神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15	安 城 工 場	愛知県安城市二本木新町 2-1-3
横浜第二工場	神奈川県横浜市都筑区東方町188	岡 山 工 場	岡山県総社市井尻野800
古 河 工 場	茨城県古河市丘里 7	広 島 工 場	広島県広島市安佐北区大林 2-3-1
伊勢崎工場	群馬県伊勢崎市粕川町1801	福 岡 工 場	福岡県古賀市古賀69
仙 台 工 場	宮城県柴田郡柴田町槻木白幡 2-9-1	熊 本 工 場	熊本県宇城市松橋町浦川内2388
新 潟 工 場	新潟県新潟市江南区二本木 4-12-8	安城冷生地事業所	愛知県安城市二本木新町 2-1-3
十和田工場	青森県十和田市稲生町 1-13	神戸冷生地事業所	兵庫県神戸市西区高塚台 6-19-1
札 幌 工 場	北海道恵庭市恵南10-1	海外駐在員事務所	米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
公 告 方 法	電子公告によるものとし、当社のホームページ（ https://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/ ）に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株 式 の 上 場	東京証券取引所プライム市場

株式に関する手続き

- 株式に関する各種手続き（住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など）は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。

- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種手続き（証券会社の口座への振替（※）、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など）は、三井住友信託銀行にてお取扱いたします。

（※）証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いたします。
- 会社法改正により、株主総会資料は原則としてインターネットを通して提供することとなりました。書面での受領を希望される株主様は、口座を開設されている証券会社または三井住友信託銀行（上記のフリーダイヤル）にお問い合わせください。